

地方銀行の外貨建て貸出—構図と変動要因—

山形大学

山口昌樹

地方銀行の国際業務への取り組みがにわかに注目を集め出している。近年は外国銀行と地方銀行との業務提携が相次ぎ、駐在員事務所を東南アジアを中心とした地域に新設する動きが活発である。ここにきて外貨建て貸出を積極的に手がける地方銀行が出始めている。国内で企業の資金需要の回復が鈍く、競争環境も厳しいとされる地方銀行にとって外貨建て貸出は今後の伸長が期待できる有力な業務分野である。本研究はこの外貨建て貸出を分析対象に取り上げる。

本研究の課題は外貨建て貸出への取り組み状況についてその構図を可視化して示すことである。外貨建て融資は海外攻勢を強めるメガバンクについて増勢が報じられることが多いが、地方銀行について取り上げられることは新聞報道等でも稀である。地方銀行の国内本店による外貨建て貸出は統計で海外向けに含まれない「影の海外融資」とも言われ、その全容は明らかでない。

そこで、本研究は外貨建て貸出のデータが有価証券報告書で公表されている地方銀行を対象として取り組み状況を俯瞰する。また、統計的手法を駆使して取り組み状況についてパターンを析出し、各銀行を分類、そして分類されたクラスターの特徴をレーダーチャートで示すことで外貨建て貸出を巡る構図を浮き彫りにしたい。さらに、外貨建て貸出を増加させている銀行に対しては電話インタビューを実施して最大の増加要因を探る。

非階層的クラスター分析である X-means 法を用いて分類を行った結果、最適なクラスター数は4つとなり、各クラスターの特徴をレーダーチャートで示すことで外貨建て貸出の構図が浮かび上がってきた。また、電話インタビューの結果から、増加への寄与が最も大きかった要因としてシ・ローンへの参加と回答した銀行が一番多いことが分かった。もちろん取引先企業の外貨需要への対応も増加要因として無視できないものであるが、現在、シ・ローン組成を積極的に進めるメガバンクに牽引されて多くの地方銀行が外貨建て貸出を伸ばしているという傾向を確認できた。

銀行の国際化と言えば、その分析対象はグローバル展開を進める日米欧の巨大銀行であり、地方銀行が分析の俎上に載ることはまずなかった。しかも、海外シンジケートローンやプロジェクトファイナンスといった金融プロダクトについては学術研究で取り上げられてきたが、地方銀行による外貨建て貸出が本格的に分析されることはなかった。こうした意味で本研究は従来の研究領域を拡張して銀行の国際展開の新たな側面に光を当てるものである。